



29 大島如雲

《菊折枝置物》 一点

昭和三年（一九二八）

銅、鑄造

二〇・三×二八・七×一五・七

ほぼ実物大の菊の折枝を鑄造で形作った金工作品。作者の大島如雲（一八五八〜一九四〇）は江戸の小石川で鑄物師を家業とする家に生まれた蠟型鑄造の名手として知られる。本作品は昭和三年（一九二八）の大札に際して、昭和天皇から香淳皇后へ贈られた。寄り添いつつ力強く優美に花ひらく二枝の菊は、即位されたばかりのお二方のイメージに重ね合わせられたとみることもできるだろう。蕾から散り落ちるまで刻々と移り変わる植物の生態のうち、その最も美しく咲き誇った瞬間を金属という植物とは正反対の硬質な素材に封じ込めたかのような造形である。写実的な形状だけでなく、花弁と葉のそれぞれの質感表現も鑄肌の処理による表面の加工によって見事に違いをあらわしている。

如雲は東京美術学校開校の翌年となる明治二十三年（一八九〇）から昭和七年までの四十六年間、同校で後進の指導にあたり、わが国の鑄金界において多大な功績を残した。本作品の製作時には、ヨーロッパで流行したアール・デコの影響を受けた新しい世代の鑄金家が台頭してきたが、高齢になっても衰えぬ如雲の造形力の巧みさが発揮されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan